

令和7年度 第1回清瀬市健康増進計画・食育推進計画評価策定委員会

■開催報告■

日時：令和7年8月20日（水）午後2時00分～午後3時30分

場所：清瀬市しあわせ未来センター ボールルーム

次第：

1. 開会
2. 委員及び事務局紹介
3. 委員長及び副委員長選出
4. 説明事項
 - (1) 第3次清瀬市健康増進計画・食育推進計画の策定スケジュール
 - (2) 健康増進及び食育推進に係る国及び東京都の計画について
5. 議事
 - (1) 市民アンケート調査について
6. 閉会

出席委員：下表のとおり ※五十音順、敬称略

氏 名	所属団体等
阿久津たか子	清瀬市薬剤師会
草深 明子	東京都多摩小平保健所 地域保健推進担当 担当課長
○古明地 夕佳	十文字学園女子大学 人間生活学部 食物栄養学科 准教授
谷口 雄磨	清瀬市立小中学校校長会 清瀬市立清瀬小学校 校長
富田 ひろ子	清瀬市健康づくり推進員連絡協議会 副会長
豊田 忠永	公募委員
◎藤井 仁	目白大学 看護学科 教授
矢澤 洋子	清瀬地域活動栄養士会 会長

◎委員長 ○副委員長

■議事要旨■

1. 開会

配布資料の確認。委員会の運営方法についての説明。生涯健幸部長より挨拶。

2. 委員及び事務局紹介

事務局より挨拶。委員の紹介。出席委員より挨拶。

3. 委員長・副委員長選出

委員の互選により、委員長には藤井委員、副委員長には古明地委員が就任。

4. 説明事項

(1) 第3次清瀬市健康増進計画・食育推進計画の策定スケジュール

事務局より説明（資料2参照）。質問なし。

(2) 健康増進及び食育推進に係る国及び東京都の計画について

計画策定支援事業者より説明。（資料3参照）

【質問1】都の推進プランの重点項目に挙げられた星3つについて、選定の背景や状況についてはどうか。

【事業者】心の健康、多様な主体による健康づくりの推進、女性の健康の3つに星印が付いている。心の健康に関しては、昨今はうつ傾向の方が増えている状況にあるので、重点分野となっている。女性の健康に関しては、ライフコースアプローチの考え方として、胎児の頃から高齢までの持続的な健康という考え方で重要視されている。多様な主体による健康づくりの推進に関しては、個人だけではなく、地域や社会のつながりを持って、みんなで健康になりましょうという考え方で、みんなであるというのは地域や会社などいろんな単位があるので、多様な主体による健康づくりというのが重要とされている。

【意見1】成人病として4項目出ているが、これを成人病という1つの括りにすれば、1つの星印になるので、細かくする必要はないように思う。

【質問2】計画策定支援事業者は、この計画の中のこういった部分を担当するのか。

【事務局】業務委託の内容としては、計画策定の支援業務となっており、具体的には、まずアンケート調査実施のための、調査票の作成、郵送、回収、回答の入力、及び分析業務がある。その他、委員会の開催支援、及び国や都の動向などを踏まえてのアドバイス、パブリックコメント、市民説明会の実施支援、アンケート結果報告書の作成、計画書の作成といった内容が含まれている。

【意見2】委員会の資料として、都の評価項目の一覧が必要である。東京都が出している分野別目標の指標一覧と、そのデータをどこから取ってくるかという資料がないと、この後のアンケートでデータが全て網羅できているかどうかチェックができない（事務局より委員長へ市民アンケート調査の設問検討において使用して

いる国、都及び市の指標一覧表を提示)

【質問3】市は、国や都によってカテゴライズされた項目にのっとして、同じようなものを計画として策定していくという考えなのか、市の実態に合わせて特色のある計画を策定していくという考えなのか。第2次の時はどうだったのか。この計画を策定した後、どういう形で市民に発信をしていくのか、もしプランがあれば教えていただけるとありがたい。

【委員長】基本的には国の健康日本21があって、その下に東京都のプラン21があり、その下に市の計画があるという建て付けになるので、国が定めたものと全然違うことはできないが、清瀬のオリジナリティが出せないわけではない。第2次の時は、当時の市長ががん対策にかなり力を入れていて、特にタバコによる肺がんを減らそうということで取り組んでいた。

【事務局】国・東京都の方針に、市の特色を肉付けしていくことで、地域の実情にあった、地域の特徴・特色を生かした計画を作っていくイメージ。前市長のがん対策に関しては、データヘルス計画において、生活習慣病を徹底的に減らしていこうという方向性を打ち出している。また市の特色として農ある風景ということで、地産地消の部分についても上手く反映させていければと考えている。具体的に今行っている取組として、直売所マップを作成しており、そういったこともこの計画の中に取り込んでいければと考えている。

【質問4】今回この計画をつくるということは、前回の計画の評価をし、評価から取りこぼしがあったような項目や、さらに進めていかななくてはいけないという内容を洗い出し、それと国の健康日本21、また都のプラン21等との目標を照らし合わせて、目標を絞り込んでいくという形になろうかと思うのですが、それはもう終わっているということか。

【委員長】評価はまだされていない。本来はもっと早くに第3次のアンケートを実施し、第2次のアンケートと比較して、目標が達成できたかの評価を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の流行等で第3次の発足がかなり後ろの方に延びてしまっているので、まだ評価はされていないという理解。この後アンケートの話があるが、第2次と共通している項目があるので、それと比較して目標は達成できたのか評価を下して、それを第3次の計画に反映させていく。

【質問5】前回のアンケートと今回のアンケートの内容は一緒ということか。

【委員長】全て同じではないが、共通する部分があるように作られる。評価について国の健康日本21では、数値目標を立てて、目標に到達したがA、目標に到達はしてい

ないが良くなったがB、良くなったか良くなっていないか分からないがC、悪化したD、評価不明がEの5段階で評価するとなっている。アンケートの結果が出たら、国の方針に従って5段階に分けて評価する。ただし、母体である東京都の計画も明確な数値目標があったわけではなく、数値目標を「上げる」とか「下げる」とか、その程度であったため、市の計画も「上げる」とか、「下げる」とかが散見されるような状態になっており、国と同じ評価ができるかという疑問だが、できるだけ近い評価をしていきたい。

5. 議事

(1) 市民アンケート調査について

調査票の事務局案にそって、事務局より説明。

【意見1】「H b A 1 c」の表記について、日本語でヘモグロビンエーワンシーと表示した方がよい。(このままでもわかるという意見もあり。)

【意見2】家族構成を問う設問がある方がよい。(複数の委員が賛同する。)

【意見3】通院中の方は不便はありませんか？といった項目があればよい。

【意見4】清瀬らしさがもう少し色濃く出るとよい。

【意見5】設問数が多すぎ途中で嫌になってしまうのではないか。所要時間の明示、回答者へのしんせんティブがあるとよい。

【委員長】回答時間を示すことは礼儀であり、冒頭に入れると良い。項目が多いことについては、国と都の計画が要求している部分を網羅するという性質上どうしても多くなってしまうのでご理解いただきたい。

【意見6】アンケートで子ども食堂を利用している子供たちがどれ位いるか知りたい。

【事務局】子ども食堂も食育の場となり得るが、子どもの福祉の分野で取り扱うものというのが現時点での認識。

【意見7】アンケートの実施方法について説明がない。

【事務局】調査票の表紙に記載。調査対象は2,000名。16歳以上。原則無作為抽出。2,000名という数は前回調査と同一。

【意見8】市のアンケート調査を設計する前提として国と都の指標の一覧が必要。

6. 閉会

追加の意見は8月27日(水)まで募り、アンケート調査票は委員長、副委員長と相談し決定することとし、閉会。